

Pulsar Release:8.1

Release: 8.1.1.12

Date: August 12, 2025

New Features:

1. ホワイトノイズの検出 (Audio white noise detection)

オーディオ->ベースバンドに「ホワイトノイズ検出」チェックを新たに追加しました。すべての周波数で均一な強度を持つ信号（ホワイトノイズ）の検出が可能です。

2. Moov Atomのロケーション検証 (Metadata location)

コンテナ->クイックタイム/MP4に「Metadata location」チェックを新たに追加しました。moov（メタデータ）atom が mdat（メディアデータ）atom の前に存在することを検証します。

3. スタート・タイムコード検証 (Validate start timecode)

コンテナ->クイックタイム/MP4->タイムコード・プロパティチェックに新たに「Validate start timecode」を追加しました。ユーザーが指定した値とメディアファイルの開始フレームのタイムコードを照合・検証します。

4. グレースケール検出 (Greyscale)

ビデオ->ベースバンドに映像フレーム内に色情報を含まない「グレースケールフレーム」の検出機能を追加しました。

5. Hardingチェックの機能強化

- 新たに「Caution（注意）」というサブチェックを追加。「失格」には至らないが、失格のしきい値に近いフレームに対して注意喚起をレポートします。
- アスペクト比のサポート範囲を拡張（4:3～19:10を超える比率にも対応）。
- 国際標準である ITU-R BT.1702-3 の追加。

6. 統計 (Statistics)

ビデオ->ベースバンドに新たなチェック項目「統計」が追加され、SDRコンテンツにおける輝度および色差成分（ミリボルト単位）の最大値、最小値、平均値と、それぞれの値が発生したタイムコードがレポートされるようになりました。

7. QCLレポートの改善（拡張）

- ・ QCLレポート内のファイルサイズもバイト単位で表示されるようになりました。
- ・ 「Sequence Information」セクションが強化され、以下に示す追加のメタデータ情報がレポートされるようになりました。
 - トランスファー特性（Transfer Characteristics）
 - マトリクス係数（Matrix Coefficients）
 - カラープライマリー（Color Primaries）
 - エンコーディングの方式（Encoding Method）
 - スキャンモード（Scan Mode）
 - クロマサンプリング（Chroma Sampling）
- ・ MXFコンテナのパラメーターログが強化され、MXFファイルについては以下のカテゴリにおける追加のメタデータ情報がQCLレポートに報告されるようになりました。
 - オーディオパラメーター
 - ビデオパラメーター
 - 共通のメタデータ
 - タイムコード情報
- ・ 「Active Video Information」セクションが強化され、画像のアスペクト比がレポートされるようになりました。
- ・ 「Video Quality Parameter Summary」と「Audio Quality Parameter Summary」は「Baseband Parameters Summary」に更新されました。
- ・ 「Quality Alert Summary」は「Alert Summary」に更新されました。
- ・ レポートの見出しでは、これまでの「Checks」に代わり「Alerts」が使用されるようになりました。
- ・ QCLレポート内の「Audio Baseband Parameters Summary」セクションがアップデートされ、オーディオストリームの最大トゥルーピーク値がレポートされるようになりました。トゥルーピーク値は、すべてのオーディオチャンネルの中で最大となるトゥルーピークに対応する値が報告されます。

Enhancement

- ・ SDRのmovファイルにHDRメタデータが含まれている場合、それを検出できるように「Video Conformance Check」が強化されました。
- ・ コンテナタブ内のタイムコードチェック（Container → MXF → Timecode）が強化され、ファイルパッケージおよびマテリアルパッケージに含まれる複数の開始タイムコード値の検証が可能になりました。
- ・ MOVファイルに含まれるHDR10の静的メタデータの検証およびレポート機能が追加されました。
- ・ テンプレートで「Speech Presence」または「Loudness Check」が有効になっている場合、「Audio Quality Parameters Summary」内にスピーチの存在割合（Speech Presence Percentage）が計算されて表示されるようになりました。なお、スピーチが検出されなかった場合は、この値は表示されません。

Note : Chromeバージョン130.0.x.x、Firefoxバージョン133.0.x.x、Edgeバージョン130.0.x.x以降では、Pulsar v8.1より前のバージョンで生成されたQCレポートからICE-Vプレーヤーを開くことができなくなります。これは、ブラウザ側の仕様変更によるものです。

Pulsar v8.1より前のバージョンを引き続き使用し、ICE-Vプレーヤーを利用したい場合は、ChromeおよびEdgeのバージョンを130.0.x.x未満、Firefoxは133.0.x.x未満に保つ必要があります。

Pulsar v8.1以降で生成されたレポートについては、Chrome、Firefox、EdgeのすべてのバージョンでICE-Vプレーヤーが問題なく開けるようになります。ただし、Pulsar v8.1より前のバージョンで作成されたレポートについては、上記バージョンを超えるブラウザでは依然としてICE-Vプレーヤーを開くことはできません。

Quasar Release:8.0

Release: 8.0.1.1

Date: April 1, 2025

New Features:

1. 埋め込みテキストの検出 (Burnt-in text)

ビデオ -> ベースバンド -> 埋め込みテキストの検出が追加されました。

関心領域 (ROI) を指定してテキストの検出を行います。

2. ロゴのオーバーラップ検出 (logo overlapping)

ビデオ -> ベースバンド -> ロゴオーバーラップが追加されました。

フレーム内にロゴが表示されている領域を指定し、ロゴの存在を検証します。

3. タイトルセーフエリア検出 (Title Safe area)

ビデオ -> ベースバンド -> タイトルセーフエリアが追加されました。

フレーム内の特定の領域を指定し、その領域外にタイトル (テキスト) が存在していないかを検証します。

4. ケイデンスパターンの追加 (Cadence)

ビデオ -> ベースバンド -> ケイデンスに「2-4-2-2-2」と「6-4」のパターンが追加されました。

5. オーディオデュレーションの追加 (Audio Duration)

オーディオ -> ビットストリーム -> オーディオデュレーションが新たに追加されました。

ミリ秒またはタイムコードでデュレーションを指定します。

6. Dolby Atmosパラメーターの追加

オーディオ -> ビットストリーム に新たにDolby Atmosタブが追加され、下記を指定することが可能になりました。

- フレームレート (Frame Rate)
- First frame of action (FFOA)
- スタートタイム (Start time)
- Bedsの数 (Number of beds)
- Bedの構成 (Bed configuration)
- オブジェクトの数 (Number of objects)

7. Track Layoutの機能強化

・小数点フレームレートファイルに対して連続するオーディオ セグメントをより正確に設定できるようになりました。以前は、オーディオ品質チェックのミリ秒計算は、小数点フレームレートファイルであってもフルフレームレートに基づいていたため、不正確さが生じていました。現在、小数点フレームレートが指定されている場合、ミリ秒の計算はそれに基づいて正確に調整されます。

・末尾から数えたセグメントで指定されたオーディオまたはビデオのプロパティがレポートされるようになりました。これまで、プロパティがセグメント内で端から定義され、アクティブなエッセンスの一部である場合、音声およびビデオのアラートは生成されませんでした。今回適切に報告されるようになりました。

8. クローズドキャプションの検出

メタデータ -> ARIB規格に則りにMXFファイル内のクローズドキャプションの存在を検知可能になりました。

9. QCentral Portalのリリース

Venera社のクラウド製品を一括管理することを目的としたポータルサイト「QCentral Portal」がリリースされました。これに伴い、これまでのQuasar Portalは廃止され、今後QuasarサービスへのアクセスにはQCentral Portal経由でのアクセスとなります。なお、既にご登録いただいている資格情報を使用してQCentral Portalへログインすることが可能です。

Bug Fixes

- ・トラックレイアウトで「オーディオチェックのスキップ」が有効になっている場合に、「オーディオのベースバンド」セクションで音声無音チェックが有効だと、通常は無視されるべきアラートが報告されるという問題がありました。この問題が修正され、意図しないアラートの報告がなくなりました。
- ・テンプレートにコーミングチェックとカラーバーまたは黒フレームチェックが含まれている場合、コーミングの問題が報告されない不具合を確認しました。今回本事象の修正を行い、コーミングの問題があるファイルであっても、適切にコーミングアラートが報告されるようになりました。
- ・ホットフォルダーを介してのJobをサブミットする際に一部確認された不具合を修正しました。

Pulsar Release: 7.6

Release: 7.6.0.64

Date: October 23, 2024

New Features:

1. Streams to Validate

新たに「検証を行うストリーム」という項目が「LFE検証」、「言語識別」チェック以外の全てのオーディオベースバンドチェック項目に追加されました。

ファイル内の全てストリームを検証する場合は「All」を選択し、指定したストリームを検証する場合は「Custom」を選びます。

2. EBU QC support

・「基本設定」⇒「レポート」⇒「追加のレポートを生成」に新たにEBU QCが追加されました。

EBUが指定する形式でQCレポートを生成することが可能です。

・「基本設定」⇒「エラーレポートに関する全般」に「レポートにEBU QCアラートIDを含める」が追加されました。

Enhancements

・「Video parameters」が「ビットストリーム」、「Quality Parameters」が「ベースバンド」という名称に変更されました。

・上記同様に「Audio parameters」が「ビットストリーム」、「Quality Parameters」が「ベースバンド」という名称に変更されました。

・ナビゲーションタブ含め日本語化を強化しました。

・True Peakの解析精度が向上しました。

・「ビデオコンフォーマンス」の解析精度が向上しました。新たにMPEG-2のシンタックスエラーを検知できるようになりました。

Bug Fixes

・テンプレートの「オーディオをスキップ」でデューレーションを指定し、Track Layoutのセグメントが作成された際のラウドネスレポートの不一致が修正されました。

・Track Layoutにて29.97 fpsファイルの開始から30 秒後に作成されたセグメントの正しい開始フレームインデックスと終了フレームインデックスを認識する際の問題が修正されました。



・テンプレートにて定義したオーディオビットレート値と比較して計算されたオーディオビットレート値を検証する際に、計算されたオーディオビットレート値が小数点以下 2 桁まで四捨五入されない問題が修正されました。

Pulsar Release: 7.5

Release: 7.5.0.90

Date: August 23, 2024

Bug Fixes

- ・一部の解析項目内のTolerance（許容値）にて小数の入力が可能となりました。
- ・一部の日本語訳について修正が適用されました。

Release: 7.5.0.70

Date: Jun 14, 2024

New Features:

1. Conformance support for audio WAV files

オーディオ WAV ファイルに対するコンFORMANCEサポートが追加されました。（コンテナ->コンFORMANCE）
以下は、wav ファイルに対して実行される適合性チェックのリストです。

- ・RIFFチャンク記述子が確認できない
- ・WAVEチャンク記述子が確認できない
- ・不正なリザーブドバイト
- ・FMTチャンク記述子が確認できない
- ・間違った CBSIZE: 期待値 22
- ・FACTチャンク記述子が確認できない
- ・DATAチャンク記述子が確認できない
- ・デコードされたファイルのサイズが正しくない
- ・サポートされていないサンプルあたりのビット数
- ・BEXTチャンク記述子が確認できない

2. Black Frame Check Enhancement

ブラックフレーム検出にフェードイン/フェードアウトのアラートを抑制する機能が追加されました。



フェードイン/フェードアウトのトランジションで使用される黒フレームを無視します。

Enhancements

- ・ PHPがバージョン8.2にアップグレードされました。
- ・ Apacheがバージョン2.4.58にアップグレードされました。

Bug Fixes

- ・ オーディオ位相チェックとトラックレイアウトの「Audio Skip」が有効になっている際の組み合わせが起因によるクラッシュ問題をFixしました。
- ・ MaxラウドネスとMinラウドネスのエラー重要度が警告からエラーに変わります。
- ・ トラックプロパティとPID固有のチェックのエラー重要度が警告からエラーに変わります。
- ・ 16:9および1.33形式で複数のアスペクト比を指定できない件で、テンプレートのビデオパラメータタブ⇒アスペクト比チェックが修正されました。
- ・ カンマ区切りで複数の値を入力する際、カンマの後にスペースを追加できない問題について修正されました。
- ・ トラックレイアウトの終了セグメントでユーザーが指定した期間のミュートが認識されない問題（エンドタイムに向けて1ミリ秒の非ミュートデータが存在する）のが修正されました。
- ・ トラックレイアウト エラーの QC レポートでのタイムコードのごみ値 (Garbage Value)レポートの問題が修正されました。

Pulsar Release: 7.4

Release: 7.4.0.113
Date: May 02, 2024

New Features:

1. QR Code

Video -> Quality Parameters -> QR Codeが追加されました。

- ・ ビデオファイル内に存在するQRコードを解析します。
- ・ 有効なURLがQRコードに適用されているか（アクセス可能か）をチェックすることも可能です。

2. Time alignment

Video->Reference Based Analysis->Time alignmentが追加されました。

- ・ リファレンスファイルとテストファイルのスタート時間とエンド時間を指定して解析が可能になりました。

- ・ ファイルの先頭とエンドで解析したい間のデュレーションを指定して、タイムアライメントポイントを検索できます。

3. Audio Level

Audio-> Quality Parameters-> Audio levelが追加されました。

- ・ ユーザーが指定したオーディオチャンネルの最大オーディオレベル違反を解析します。
- ・ 特定のチャンネルの最大オーディオレベルとデュレーションを設定でき、しきい値を超えると、最大オーディオレベル違反のアラートが生成されます。

4. Audio Mute Enhancement

Audio-> Quality Parameters-> Audio Muteでファイルのミュートチャンネルを解析が可能になりました。

- ・ オーディオチャンネルがファイルのデュレーション全体にわたってミュートになっているかを解析します。

5. Endianness Check

Audio-> Audio Parameters-> Endianness Checkが追加されました。

- ・ オーディオトラックで使用されているリトルエンディアンまたはビッグエンディアンを解析できます。
- ・ 各バイトをどのような順番で記録・伝送するかを表します。

6. Detect Dual Mono Check Enhancement

Audio Quality-> True Stereo-> Detect Dual Monoの機能が強化されました。

7. Speech Presence Logging

Audio-> Audio Quality-> Speech Presenceが追加されました。※英語のみ

- ・ 指定された時間以上の継続的な音声が発見された場合、オーディオ ストリームには音声が存在すると見なされます。
- ・ ユーザー定義のしきい値よりも短い継続時間で音声が見つかった場合、音声は存在しないと見なされません。

8. Audio Parameters Logging

音声チェックに新しいオプション「log」が追加され、解析項目として設定せずに値のみを QC レポートに記録



します。デフォルトでは、ラウドネスの ATSC(A/85) (Integrated) 値が QC レポートで報告されます。

- Loudness
- Loudness Range
- True Peak
- Sample Peak
- Max audio level
- True stereo
- Test tone
- EAS tone

9. Report Folder Naming Convention

General-> Report Customizationからレポートフォルダーに任意の名称を設定できるようになりました。

- File name first : フォルダー名は任意の名称で始まり、その後に Pulsar 識別子が続きます。
- Pulsar identifier first : フォルダー名は Pulsar 識別子で始まり、その後に任意のファイル名が続きます。

10. Skip Audio Check Enhancement

Audio-> Quality Parameters-> Skip Audioに「Active Essence」と「Inactive Essence」が追加されました。

- Active Essence : 解析したい範囲の開始時間と終了時間を指定します (従来の方法です)。
- Inactive Essence : ファイルの頭「～秒」は解析しない、またはファイルの終わりから「～秒」は解析をしないという設定ができるようになりました。
- Inactive Essenceを用いた設定は MXF, MP4, MOV, AVI, LXF, GXF コンテナとWAVファイルがサポートされています。

11. Skip Video Check Enhancement

Video-> Quality Parameters-> Skip Videoに「Active Essence」と「Inactive Essence」が追加されました。

- Active Essence : 解析したい範囲の開始時間と終了時間を指定します (従来の方法です)。

- ・ Inactive Essence : ビデオの頭「～秒」は解析しない、またはビデオの終わりから「～秒」は解析しないという設定ができるようになりました。
- ・ Inactive Essenceを用いた設定は MXF, MP4, MOV, AVI, LXF, GXF コンテナがサポートされています。

12. New Categories for Severity

- ・ API経由でのテンプレートやパラメーターを更新する為のダイナミックテンプレートのサポートが追加されました。
- ・ 新しいパラメーター“strTemplateUpdateData”を用いて、PostJob APIに追加されたテンプレートのパラメーターをオーバーライド出来ます。
- ・ 共通の解析項目で構成されるベースとなるテンプレートを作成し、ダイナミックテンプレート機能を使用してベーステンプレートの上部に解析項目を再構成することが可能です。
- ・ チェックとそのしきい値は、PostJob API で送信された値に従って上書きされます。

13. Dynamic Template Support

- ・ アラートの種類に新たに「Critical」と「Info」が追加されました。
- ・ 「Critical」に設定することで、General-> Error reporting-> Abort job if Critical alert is foundにチェックマークを入れて、そのCriticalで見つかった場合、そこでJobを終了します。

14. Japanese Language Support for Template Checks

- ・ Pulsar UIの日本語化をおこないました。

Enhancements

- ・ QC レポートが拡張され、オーディオおよびビデオのクオリティーチェックに関するアラートの数が表示されるようになりました。
- ・ エラーレポートにどの解析項目で検証されたエラー内容なのか記載されるようになりました。
- ・ Video-> Video Parameters-> Max distance between I picturesに“Max distance between I pictures”が追加され、「ミリ秒」単位での解析に強化されました。
- ・ Video-> Quality Parameters-> Cadenceのケイデンスレポートにパーセンテージでの表記も加わりました。
- ・ QC レポートには、ベースバンド アラートの終了タイムコードと、アラートが発生したベースバンド チェックに関する情報を示すパラメーターが含まれるようになりました。



・エラーレポートにどの解析項目で検証されたエラー内容なのか記載されるようになりました。